

5. 山形県高島町および北海道の東藻琴村の生物活性水利用について

◎山形県高島町での活動

山形県高島町では肉牛生産牧場の”オガクズ牛ふん発酵堆肥”と牛の尿から製造した”生物活性水”を利用して野菜、米および果樹（りんご・モモ・ブドウ）の生産をしている。

発酵堆肥の利用と生物活性水（液肥）の利用からスタートしたのであるが、生物活性水を希釈してモモやブドウの木・芽・葉に噴霧することや野菜や他の作物に噴霧することによって農薬をできるだけ少なくする栽培をしている。

生産物を東京を中心として関東地区の有機農産物を扱っている”らでいっしゅぼーや株式会社”や有機野菜を扱っている千葉県や東京都内のコープやスーパーに出荷している。

地域の農家が集まって生産グループをつくって活動していて、その中の若い人達で”赤とんぼ”という会をつくって活発な活動をしている。

農業後継者不足という心配のない地域であるといわれている。

◎北海道東藻琴村での活動

東藻琴村の農協組合員は約170名であり、酪農と畑作が主体で、各農家の経営面積はかなり広い。

J A東藻琴村が大規模堆肥センター（発酵堆肥）と大規模液肥センター（生物活性水）を造っている。東藻琴村で生産される家畜ふん尿、麦稈などはほとんどが有機質肥料として利用されている。そのほかに隣村で得られる魚荒、ヒトデ、海藻類を引き受けて一緒に堆肥化している（窒素分の多くミネラルの豊富な発酵堆肥の製造）。

酪農のほか、地域の主な作物は小麦、ビート、大豆、ナガイモ、加工用馬鈴薯、玉ねぎなどである。ナガイモは市場で高く評価されるようになった。

牛糞を利用した堆肥と尿を加工した液肥（生物活性水）を利用することで、農薬と化学肥料の利用を減らすことができたといっている。

将来に明るい見通しがでてきたことから若い人が村に帰ってきて今では70%の農家に後継者がいる。

◎J A十和田市の場合

J A十和田市が取り組んでいるミネラル野菜は大変魅力のあるものである。現在、持続可能な農業、地域循環型農業ということが多くの場でいわれているが、これに良く適合するものである。

ミネラル野菜を生産するにはミネラル分の多い肥料と微量元素が含まれている肥料を施用する必要がある。

十和田市は養豚業が盛んであり、そこから排出される豚ふん尿を原料としてつくった発酵堆肥、また、畜舎から排出される尿汚水からつくられた生物活性水（液肥）は